

水質汚濁に係る農薬登録保留基準の設定に関する資料
フルアジホップPブチル（フルアジホップP）

I. 評価対象農薬の概要

1. 物質概要

化学名 (IUPAC)	ブチル = (R) - 2 - { 4 - [5 - (トリフルオロメチル) - 2 - ピリジ ルオキシ] フェノキシ } プロピオナート				
分子式	C ₁₉ H ₂₀ F ₃ NO ₄	分子量	383.4	CAS NO.	79241-46-6
構造式					

2. 作用機構等

フルアジホップPブチルは、フェノキシ酸系の除草剤であり、その作用機構は雑草の茎葉部及び根部から吸収され、体内を移行し、脂肪酸の生合成を阻害して枯殺する。

本邦での初回登録は1998年である。

製剤は、粒剤、水和剤及び乳剤が、適用農作物等は果樹、野菜、いも、豆、樹木、いぐさ、芝等がある。

原体の輸入量は94.0 t（平成25年度[※]）、104.0 t（平成26年度[※]）、83.0 t（平成27年度[※]）であった。

※年度は農薬年度（前年10月～当該年9月）、出典：農薬要覧-2016-（（一社）日本植物防疫協会）

3. 各種物性等

外観・臭気	淡黄色粘稠性液体、 微芳香臭	土壌吸着係数	速やかにフルアジホップ酸に 分解するため、試験省略
融点	-15℃（流動点）	オクタノール ／水分配係数	logPow=4.95
沸点	199.8℃（20 Pa） 201.8℃（27 Pa）	生物濃縮性	速やかにフルアジホップ P 酸 に分解するため、試験省略
蒸気圧	4.1×10 ⁻⁴ Pa（25℃）	密度	1.2 g/cm ³ （20℃）
加水分解性	半減期 30 日以上（25℃、pH5） 78 日（25℃、pH7） 29 時間（25℃、pH9）	水溶解度	1.75 mg/L（25℃）
水中 光分解性	半減期 6.02 日（北緯 30° 夏季太陽光換算）（東京春季太陽光換算 17.5 日） （滅菌緩衝液、pH5、25±1℃、33.66－41.12 W/m ² 、300－400 nm）		

II. 安全性評価

一日摂取許容量（ADI）	0.0044 mg/kg 体重/日
<p>食品安全委員会は、平成 27 年 7 月 7 日付けで、フルアジホップ（フルアジホップブチル、フルアジホップ P ブチル）*の ADI を 0.0044 mg/kg 体重/日と設定する食品健康影響評価の結果を厚生労働省に通知した。</p> <p>なお、この値はフルアジホップブチルのラットを用いた2年間慢性毒性/発がん性併合試験における無毒性量0.44 mg/kg体重/日を安全係数100で除して設定された。</p>	

*フルアジホップブチル及びフルアジホップ P ブチルの試験成績に基づき、評価が行われた。

なお、フルアジホップブチルは平成 28 年 10 月 28 日に国内の農薬登録が失効している。

Ⅲ. 水質汚濁予測濃度（水濁 PEC）

1. 製剤の種類及び適用農作物等

農薬登録情報提供システム（（独）農林水産消費安全技術センター）によれば、本農薬は製剤として粒剤、水和剤及び乳剤があり、適用農作物等は果樹、野菜、いも、豆、樹木、いぐさ、芝等がある。

2. 水濁 PEC の算出

(1) 水田使用時の PEC（第1段階）

水田使用時において、PEC が最も高くなる使用方法（下表左欄）について、第1段階の PEC を算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC 算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	いぐさ	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値 (製剤の密度は 1 g/mL として算出))	350
剤 型	17.5%乳剤		
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量	200 mL/10a (10a 当たり、薬剤 200 mL を希釈水 100 L に添加して使用)		
地上防除/航空防除の別	地上防除	N_{app} : 総使用回数 (回)	1
使用方法	雑草茎葉散布 (落水)	A_p : 農薬使用面積 (ha)	50
総使用回数	1 回		

(2) 非水田使用時の水濁 PEC (第1段階)

非水田使用時において、PECが最も高くなる使用方法(下表左欄)について、第1段階のPECを算出する。算出に当たっては、農薬取締法テストガイドラインに準拠して下表右欄のパラメーターを用いた。

PEC算出に関する使用方法		各パラメーターの値	
適用農作物等	樹木等	I : 単回・単位面積当たりの有効成分量 (有効成分 g/ha) (左欄の最大使用量に、有効成分濃度を乗じた上で、単位を調整した値)	6,000
剤型	2.4%粒剤		
当該剤の単回・単位面積当たり最大使用量	25,000 g/10a	N_{app} : 総使用回数 (回)	3
		D_{river} : 河川ドリフト率 (%)	0
地上防除/航空防除の別	地上防除	Z_{river} : 河川ドリフト面積 (ha)	0.11
使用方法	植栽地を除く樹木等の周辺地に全面均一散布	R_u : 畑地からの農薬流出率 (%)	0.02
		A_p : 農薬使用面積 (ha)	37.5
総使用回数	3回	F_u : 施用方法による農薬流出補正係数	1

(3) 水濁 PEC 算出結果

使用場面	水濁 PEC (mg/L)
水田使用時(第1段階)	0.004659…
非水田使用時(第1段階)	0.000275…
うち地表流出寄与分	0.000275…
うち河川ドリフト寄与分	—
合計 ¹⁾	0.004934… ≒ <u>0.0049 (mg/L)</u>

¹⁾ 水濁 PEC の値は有効数字2桁とし、3桁目を四捨五入して算出した。

IV. 総合評価

1. 水質汚濁に係る登録保留基準値

登録保留基準値	0.011 mg/L
以下の算出式により登録保留基準値を算出した。 ¹⁾	
0.0044 (mg/kg 体重/日) ADI	× 53.3 (kg) × 0.1 / 2 (L/人/日) = 0.01172... (mg/L) 体重 10%配分 飲料水摂取量

¹⁾ 登録保留基準値は、体重を 53.3kg、飲用水を 1 日 2L、有効数字は 2 桁（ADI の有効数字桁数）とし、3 桁目を切り捨てて算出した。

<参考> 水質に関する基準値等

(旧)水質汚濁に係る農薬登録保留基準 ¹⁾	0.3 mg/L
水質要監視項目 ²⁾	なし
水質管理目標設定項目「その他農薬」 ³⁾	0.03 mg/L
ゴルフ場指導指針 ⁴⁾	なし
WHO 飲料水水質ガイドライン ⁵⁾	なし

¹⁾ 平成 17 年 8 月 3 日改正前の「農薬取締法第 3 条第 1 項第 4 号から第 7 号までに掲げる場合に該当するかどうかの基準を定める等の件」（昭和 46 年 3 月 2 日農林省告示 346 号）第 4 号に基づき設定された基準値。

²⁾ 水質汚濁に係る要監視項目として、直ちに環境基準とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきとされた物質に係る指針値。

³⁾ 水道法に基づく水質基準とするには至らないが、水道水質管理上留意すべき項目として設定された物質に係る目標値。

⁴⁾ 「ゴルフ場で使用される農薬による水質汚濁の防止及び水産動植物被害の防止に係る指導指針の制定について」（平成 29 年 3 月 9 日付け環水大土第 1703091 号環境省水・大気環境局長通知）において設定された指針値。

⁵⁾ Guidelines for drinking-water quality, fourth edition

2. リスク評価

水濁 PEC は 0.0049 mg/L であり、登録保留基準値 0.011 mg/L を超えないことを確認した。

(参考) 食品経由の農薬推定一日摂取量と対 ADI 比

農薬推定一日摂取量 (mg/人/日)	対 ADI 比 (%)
0.0887	36.6

出典:平成 28 年 6 月 15 日開催の薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会資料